

令和7年度の教育活動等に対する学校評価書

学校法人千葉学園千葉幼稚園 園長 岡本潤子
 学校法人千葉学園千葉幼稚園学校関係者評価委員会

1. 教育目標 大人も子どもも共に『よくみる よくきく よくする』

八戸に生まれ日本人女性初の新聞記者であり教育者羽仁もと子の言葉を教育課程に織り込みながら、のびのびとした明るい環境の中で人とのふれあいを大切に、毎日の生活を丁寧に『よくみる よくきく よくする』人に。大人も子どもも共に学び合いながら。

2. 本年度取り組んできた重点目標

- 1) 0歳児からの教育環境を学ぶ ①0・1・2歳児の保育環境を学ぶ ②0・1・2歳児の保育環境を創ろう ③0・1・2歳児の保育環境を実現しよう
 2) 保育を豊かにするための ICT の活用を学ぶ

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	自己評価			学校関係者評価	
	評価	取り組み状況	取り組みによる成果	評価	意見
0歳児からの教育環境を学ぶ。	A	・乳児期について積極的に研修をしたり教材研究を進める。また、クレレ01の実践と振り返りを通して、体制を整えていく。	・乳児の発達への理解を深め、年齢に適した教材や発達を促す環境を整えることができた。	A	・入園前の保護者の孤独感や負担感は大きいものがあるため、園としての新たな取組であるクレレ01は意義ある取組である。 ・初めての取組であるため、園が試行錯誤しながら取り組んでいる様子が伺えた。 ・クレレ01は大変重要な親子支援である。 ・成果が認められる。
		・“保護者の思いに寄り添う”“幼稚園に親子で通うことの意義”など、クレレ01で目指すところを様々な方法で発信したり、教員間でも共通理解を深めていく。	・より多くの方に乳児期における教育や環境の大切さを発信したり、教員間でも理解を深め、研鑽に励むことができた。		
		・実際の活動の中で保護者からの意見を積極的に聞き、活動のヒントをつかむ。また、“言葉を発せない乳児期であっても、親の関わり方や環境は成長に大きく影響する”ことを実感できる場となるよう努め、継続してきていただく。	・保護者からの意見を積極的に取り入れながらクレレ01の活動に活かし、なかなか見えにくい乳児期の成長について、共に理解を深めながら関わる場とすることができた。		
保育を豊かにするためのICTの活用を学ぶ。	B	・子どもの遊びが広がるためにどのようなデジタル機器が必要か、また、機器を取り入れる際の方向性が同じになるよう教員間で議論を重ね、導入に向かう。本園に合った活用の仕方を各自で考え、積極的に使用していく。	・様々なデジタル機器の保育現場での活用例を知り、参考にしたり、子どもたちの実体験の中から必要と感じた場面で使用する。また、保育者からの提案や働きかけをする場面も設けることができた。	B	・園として初の取組ながらも、思考錯誤しながら丁寧に取り組んでいる様子が伺えた。 ・実験的な取組の様子から、教員の成長にもつながっていたのではないかと。 ・今後さらなる環境整備が必要ではないかと。 ・何のためにICTを活用するのか、意識的に環境整備をする必要がある。
		・活動の様子を映像で記録し、教員間で見合うことができるようにする。実践からの評価・振り返りを行い、全員で意見を出し合いながらそれぞれの活動に活かそうとする。	・実践と振り返りから得た学びを、教員間で意見交換しながら理解を深めていくと同時に、自分たちの取り組みに活かすことができた。		
		・これまで保育の中に使われることのなかった機器の使用がきっかけで、子どもたちが遊びの中で「またやってみよう」「次はこうしたらどうだろう」と、興味の深まりや意欲の高まりが見られるようになる。	・デジタル機器を使うことで、子どもたちの探求心や発想が深まる活動に繋がっていく姿が見られた。		

4. 総合的な評価結果 (A:十分に成果があった B:成果があった C:少し成果があった D:成果がなかった)

評価	理由
B++	0歳児からの教育環境の学びと実践に関しては、クレレ01の運営を通して乳児の実態を理解し、教員間で知識を深め、担当教員の取り組みから刺激を受けるなど、PDCAサイクルが機能していた。それと同時に、子ども・保護者・職員間それぞれにメリットが見られ、取組1年目としては良い実践と成果を得ることができた。ICTの活用については、昨年の取組を経て保育の中に活かす実践までつなげることができたこと、一つひとつの過程に全員で丁寧に取り組むことができた点は評価できる。一方で、子ども自身からの反応にまだ手ごたえが見られないことや、スケールでの評価実施から見て、以前の反省・評価からの進展があまり見られなかったという点を踏まえ、次年度はこれらの課題に取り組み、発展させていくことが必要である。

5. 今後の課題と具体的な取り組み方法

来年度への課題	来年度の具体的な取り組み方法
『デジタル時代の幼児教育を考える』 9月4～5日東北大会での公開保育に挑戦し参加者から様々な意見を得て保育の質を向上させる。	① 道具としてのデジタル機器 ② デジタルを通して見えてくること、見えてくる事実を基に、 ③ あそびや経験をつなぎ発展させる=学びの連続性 ④ より深く、広く、保育の形を創造する ⑤ 大人も子どもも面白がって考える